

令和6年度 第1回環境審議会議事録（議事要旨）

1 **開催日時** 令和6年8月28日（水） 午前10時00分～11時30分

2 **開催場所** 浦安市役所4階 災害対策本部室

3 **出席者**

（委員）

奥会長、浜島副会長、亀井委員、後藤委員、小神委員、島野委員、畑山委員
志々目委員、中川委員、宮川委員、植木委員、碓井委員、菊間委員、櫻井委員、
弦本委員

（事務局）

環境部長、環境部次長、環境保全課長、環境保全課 課長補佐、温暖化対策推進係長
温暖化対策係1名

4 **次 第**

- ・ 委嘱状交付
- ・ 市長挨拶
- ・ 委員、事務局紹介
- ・ 会長・副会長の選出
- ・ 開会
- ・ 議題
 - （1）「うらやす環境ひろばin三番瀬」の開催報告について
 - （2）ゼロカーボンシティに向けた今後の取り組みについて
 - （3）その他
- ・ 閉会

5 **議題要旨**

（1）「うらやす環境ひろばin三番瀬」の開催報告について

事務局より、「うらやす環境ひろばin三番瀬」の開催報告について説明した。委員からの主な意見は以下のとおり。

（委員） 近隣の学校の運動会と日程が重なっていた点が少し残念であった。今回が第1回目ということなので、これから多くの市民に認知してもらえるようPRして欲しい。

（会長） PR方法について、今回はどのように行ったのか。

（事務局） 事業周知は、小・中学校経由で児童・生徒にチラシを配付した他、公共施設へのポスター掲示、市広報紙・市HPへの掲載などを行った。

（委員） アンケート結果で、「改善が必要と思われるイベント内容」の設問に対する回答がいくつかあるが、内容に関してどのような改善が必要であると認識しているのか。

（事務局） アンケートでは、干潟観察会や潮だまり観察会に対して、「もっと定員や実施回数を増やして欲しい」という意見が多かった。海で行うイベントは、安全性の確保や、潮の影響で実施時間が限られることから、参加人数を制限せざるを得な

い。このような制約がある中で、なるべく多くの方に参加していただけるよう今後検討していきたい。

(委員) アンケートの回収数が少ないように思えるが、回答者への特典は何かなかったのか。

(事務局) 先着でアンケート回答者に対して、スポーツドリンクの配付を行った。アンケートの回答方法は、紙と電子でできるようにして、職員からも参加者に声掛けをしたが、次年度以降はもっと回収できる方法を検討したい。

(委員) 当日は、様々な団体や企業が協力していて良かったと思うが、会場へのアクセスがどうしても不便だと感じる。次回以降は、浦安駅や新浦安駅からのアクセスについて検討して欲しい。

(事務局) 会場へのアクセスについては、課題であると認識しているが、難しい課題でもあるため、今後の検討課題としたい。

(会長) アンケートの中で会場までのアクセス手段について、聞いてみるのも良い。

(委員) このイベントとは別に、三番瀬クリーンアップが開催されているが、連携して実施されてはどうか。

(事務局) 昨年度、三番瀬環境観察館で開催した事業は、三番瀬クリーンアップと同日に開催した。しかし、潮の時間に合わせて開催する必要があるため、今年度は別日に実施した。なお、三番瀬クリーンアップは、団体の主催事業で、市も共催して連携している。

(委員) このようなイベントの場合、確実に回収できる点やその場の感想を聞くことができる点などから、電子よりも紙の方が良いと思う。アンケートは、会場のどの場所に置いて、どのように回収したのか。

(事務局) 紙のアンケートについては、会場の出入口付近の受付に設置し、記入した方にスポーツドリンクをお渡しした。電子は、イベント終了時に職員が参加者に声を掛けて、その場でQRコードを読み取ってもらう方法とした。イベント直後であると、なかなかその場で回答してもらえないことがあったので、そこは課題点であると認識している。

(会長) 資料に関して、アンケート回収数が、紙と電子の内訳の合計数と合わない。

(事務局) 紙の回収数が誤りである。正しくは109通ではなく、79通が正しい。

(2) ゼロカーボンシティに向けた今後の取り組みについて

事務局より、ゼロカーボンシティに向けた今後の取り組みについて説明した。委員からの主な意見は以下のとおり。

(委員) 昨年度に水素の活用について検討していたが、その後の状況はどうなったのか。

(事務局) 昨年度の検討事業で水素の活用方策について検討を行い、水素自動車が最も取り組みやすいという結論に至ったが、導入コストの課題もあり、引き続き活用方策の検討はしているが、具体策は決まっていない。

(委員) 事務事業編の廃棄物焼却による排出量が増えている。浦安市では、プラスチック類を燃えるゴミとして回収していることを踏まえると、計画の目標達成がかなり厳しいという印象を受ける。そのため、この点をさらにクローズアップして考えていった方が良い。

(事務局) 10年以上先の話となるが、クリーンセンターの建て替えの際には、廃プラスチックの処理施設の設置についても案として出ているところである。

(委員) 包装容器類を分別回収したうえで、廃プラスチック類を焼却するのか。

- (事務局) 包装容器類の分別回収は、現状行っていない。
- (委員) ペットボトルは分別回収されている。包装容器は、スーパーが独自で回収ボックスを設置しているものの、ほとんどの人は燃えるごみとして捨てているのではないかと思う。市民側としてもプラスチックをなるべく使わないように意識していないといけない。
- (事務局) プラスチック類の分別回収とその処理に関しては、それなりのコストが掛かってしまうという試算があり、現時点では明確な方向性を示すことは出来ないが、課題認識としては強く持っており、今後検討していきたい。
- (委員) 廃プラスチック類を削減するには、分別回収するしかないと思うので、よく検討して欲しい。
- (委員) おもちゃなどのプラスチック製品については、焼却しないで済む回収方法等の方策があると思う。市民側でも、プラスチックをなるべく使わないという意識を持つ必要があるが、なかなか進みにくい面があるため、プラスチック類を回収、処理する側でもっと対策を講じる必要があるであろう。
- また、浦安エコカンパニーについて、事業者は市のホームページに掲載されているのか。環境に配慮した活動というのは具体的にどのような活動なのか。
- (事務局) 浦安エコカンパニーに認定及び宣言している事業者は、市ホームページで公開している。環境活動については、地球温暖化対策をはじめ、地域の美化活動など環境全般に関して、項目別に活動内容を報告してもらっている。
- (委員) 浦安市の廃プラスチック類の含有率について、他の自治体と比較してそこまで高くないことから、令和3、4年度については新型コロナウイルスによる影響が少なからずあるものと推察される。プラスチック包装容器の分別回収については、最初から全ての地区を対象とするのではなく、自治体によっては実験的に地区を絞って行い、効果を分析しながら進めているところもあるので、そういった自治体を参考にされると良い。また、区域施策編について、業務部門で温室効果ガスの排出量が増えているとのことであるが、先進的な取り組みを行っている企業の実践例を横展開していけると良い。
- (委員) 会議資料における部門の掲載順が地球温暖化対策実行計画と異なるので、意図的でないのであれば合わせた方が良い。また、照明器具のLED化について、蛍光灯の製造が2027年で終了となることが決まっており、いずれはやらなくてはならないことであるため、進められたらどうか。
- (事務局) 施設のLED化については、これから令和7年度の予算編成が始まるが、全庁的にLED化が進むよう財政部門と調整しているところである。
- (委員) 本市は自然環境に乏しいという説明があったことに関連して、中町地区における団地の樹木がかなり大きく育ってきており、災害時等に際して危険であるため、伐採するという話が出ている。自然環境が乏しい中での貴重な資源であると思うので、全てを伐採するのではなく、景観面を含めて検討して欲しい。
- (会長) 区域施策編における温室効果ガス排出量の推移について、分析の中に新型コロナウイルスの影響が考慮されていない。今後の排出量の推移によっては、テレワークの普及による家庭部門の増加など、新型コロナウイルスの影響が数値に表れる可能性もあるので、社会情勢も考慮して分析された方が良い。
- また、浦安市の再エネポテンシャルに関して、東京都では一定の事業者に対して新築の戸建住宅を建てる際に太陽光発電設備の設置を義務化している。基礎自治体でも同様の制度について検討がなされており、住宅等の屋根まで考慮に入れて再エネのポテンシャルを検討された方が良い。建築物省エネ法に基づく建築物再

エネ利用促進区域に係る計画を基礎自治体が策定すれば、再エネ設備の設置について地域の実情を踏まえた要件とすることができる。そういった制度を検討していくと、都市部でも再エネのポテンシャルが広がる可能性がある。

(3) その他

次回会議は3月の開催を予定している。詳細については、後日連絡する。

6 傍聴者

傍聴者0名

以 上